

タイトル	日本とポーランドのことわざ
ポーランド語のタイトル	Przysłowia polskie i japońskie
テーマ	a
名前	アドリアンナ・シニアデク
ポーランド語の名前	Adrianna Śniadek
学校名	UAM 日本学科
学年	2 年生

私は日本学科に入る前に、民族言語学科で勉強していました。そこでイギリスとポーランドの色々なことわざを比べて、よく似ていると気がつきました。そこで、「日本語の場合はどうだろう？」と考え、日本のことわざをいくつか選んで、同じ意味を持つポーランドのことわざと比べてみました。

一番目は「犬も歩けば棒にあたる」です。期待していない時に幸運が来るという意味だそうです。ポーランドにも似ていることわざがあって、「trafiło się ślepej kurze ziarno」「目がみえないにわとりにもえさは見つかる」と言います。犬は棒にぶつかるし、にわたりの目は見えないし、両方とも動物がかわいそうだと思わないではいられません。それでも、私は「こんなかわいそうな生き物に幸運が来るなら、私にも来るかもしれない」と考えて、心が楽になります。

次に選んだのは似ている親子についてのことわざです。日本人は「蛙の子は蛙」と言うそうです。ポーランドでは「niedaleko pada jabłko od jabłoni」「リンゴはその木の近くに落ちる」と言います。しかし、日本のことわざの方が私は好きです。なぜかというと、蛙の親子のイメージは、私にとってかわいいからです。小さい蛙を想像すると、ついニコニコしてしまいます。

ポーランドにはないことわざもあります。例えば、日本の「仏の顔も三度まで」ということわざです。人はどんなに優しくても、同じことを三回もされたら怒ります。日本だけではなくて、どこでもそれは当てはまると思います。しかしポーランドではそれに相当することわざはありません。もしかすると、ポーランド人は、一般的に日本人より衝動的で、嫌なことを一回でもされたら怒ってしまうということかもしれません。

それにしても、日本はポーランドからこんなに遠いのに似ていることわざがあるということは、どんな国でも、どんな時代でも、人間は同じような考え方をするからだろうと思います。ことわざを使って自分が言いたいことが伝わるのはすばらしいと思います。普通の言葉だけではつまらないので、ことわざを使って話を楽しくするのはいいと思います。そして、ことわざには文化背景や国民性が現れると思いますから、特に外国人には、とても面白いです。ですから、みなさん、外国人と話す時はぜひことわざを使ってあげてください。袖振り合うもことわざの縁。